

在宅高齢者を対象としたサテライト・デいの運営評価

栗本 一美¹⁾*・古城 幸子¹⁾・木下 香織¹⁾・馬本 智恵²⁾

1) 看護学科 2) 非常勤助手

(2005年11月9日受理)

過疎化が進むA市では、高齢者支援の充実は重要な課題であり、特にA市の山間部にあるB地区では、高齢化率32.4%と高い。またB地区は交通機関も隣接町の町営バスが1時間に1本通過する程度の交通の不便さがあり、高齢者のみの世帯や独居高齢者世帯では、家族以外の人と出会うことがない日も多い。A市を設立母体とする本学は、地域貢献の一環として、①千屋震災訪問ボランティア②まごころ介護ネット③サテライト・デいの3つのプロジェクトを掲げ取り組んでいる。本研究はこれらのプロジェクトの1つである『サテライト・デイ』について取り上げた。『サテライト・デイ』は、2004年度からA市B地区に住む高齢者を対象に開始した。在宅高齢者が自宅から歩いていける距離にサロンのような場を設け本学教員と学生がその場に出向き、健康測定やレクリエーションなどを行なうという企画である。初年度は計4回実施した。その結果、参加者からは「サテライトが楽しみ」「自分の健康状態を知る機会になる」等の肯定的反応を得ることが出来た。今後も高齢者にとって、『サテライト・デイ』への参加が「生活への潤い」「社会参加」「社会的役割」の場として地域に定着した取り組みになるよう継続してゆきたいと考えている。

(キーワード) サテライト・デイ、在宅高齢者、閉じこもり予防、生活への潤い

はじめに

わが国の老年人口は年々増加し、高齢化率は、2004年には19.5%を示し、今世紀半ばには30%を超えると予測されている。このような高齢社会にあって、介護需要も増え、要介護状態になったときの社会的介護を保障するものとして、2000年に、介護保険制度が創設された。しかし要介護状態にならないように予防し、努力することが老年期の自立的な生活への願望である。2000年からこうした高齢者の自立努力を社会的に支援する『介護予防・生活支援対策』も実施され、「パワーリハビリ」等の取り組みがなされている。しかし、「パワーリハビリ」は、在宅高齢者が歩いて行くことができる場所より、交通に便利の良い場所で実施している所が多く、実施者が出向き小規模単位で行

なわれている所は少ないのが現状である。

これらの社会状況を踏まえ2004年度から、過疎化が進むA市B地区に住む在宅高齢者を対象に『サテライト・デイ』を実施している。『サテライト・デイ』は、在宅高齢者が自宅から歩いて行ける距離に気軽に立ち寄れるサロンのような場を設け、本学学生・教員がそこに出向き、レクリエーション等を通して在宅高齢者との交流を深めている。この取り組みは、本学の地域貢献プロジェクトの一つであり、在宅高齢者の社会的閉じこもり予防や生活に潤いと張りになるような時間と空間を提供することを目的としている。

『サテライト・デイ』を試みた結果、在宅高齢者は『サテライト・デイ』に参加し、同じ町内に住みながらもなかなか会うことの出来ない高齢者同士の交流の場になっていること、孫世代の学生

*連絡先：栗本一美 看護学科 新見公立短期大学 718-8585 新見市西方1263-2

との交流を通して、「社会参加」や「社会的役割」を担う機会になっていることが考えられた。今後も『サテライト・デイ』を継続することによって在宅高齢者にとって「生活の潤い」「社会参加」「社会的役割」「対人関係」などへの効果が期待できる。

Ⅰ. 研究目的

2004年10月から実施した『サテライト・デイ』の運営評価を行い、今後の『サテライト・デイ』のあり方についての課題を明らかにする。

Ⅱ. 研究方法

1. 調査対象

1) 2004年10月～11月の間に計4回実施した『サテライト・デイ』に参加した在宅高齢者34名のうち、調査目的に同意が得られた27名（回収率79.4%）。

2. 調査期間：2005年1月

3. 調査方法

『サテライト・デイ』終了後、老人クラブの代表者に参加者全員へのアンケート用紙の配布を依頼した。記入されたアンケート用紙は、参加者が各自市民センターへの持参又は送付により、配布後2週間以内に回収した。

アンケート用紙には、対象の属性として①性別②年齢③参加回数④サテライト・デイへの交通手段について調査した。サテライト・デイに関する満足度として、①開始時間②終了時間③健康測定④健康教室⑤学生との交流について、各項目を大変満足から大変不満の5段階で調査した。また、各項目の評価理由と、今後健康教室で取り上げて欲しいテーマやサテライト・デイ全体についての意見や感想を自由記述により求めた。

4. 分析方法

属性と満足度の調査項目毎に単純集計、および自由記述については項目毎に意味内容の類似性により分類した。

Ⅲ. 倫理的配慮

在宅高齢者には研究の目的、匿名性の保持、研究への同意は自由意志であり、拒否した場合でも不利益がないことをアンケート用紙の表紙に記載した。

Ⅳ. 『サテライト・デイ』の概要

1. 『サテライト・デイ』の目的

A市に住む65歳以上の高齢者のうち、要介護状態にある介護保険認定者は13.4%を占め、残りの約85%の高齢者は健康で在宅生活を送っている。しかし、身体的老化は避けがたく、生活の行動範囲は年々狭くなってきている。特に公共機関がない山間地域B地区には、191名の高齢者が住んでおり、高齢化率も32.4%とA市内の中でも高い割合を示している。このようにB地区に住む在宅高齢者は身体的問題にあわせ、同町内に住む人達とはもちろん家族以外の人との交流がない日を過ごすことが多いという現状がある。

そこで、A市に存在する本学が主体的に地域に働きかける高齢者支援活動として、①千屋震災訪問ボランティア②新見介護ネット③サテライト・デイの3つのプロジェクトを掲げ、地域貢献の一環として取り組んでいる。本研究で取り上げた『サテライト・デイ』は、これらのプロジェクトの1つである¹⁾。

『サテライト・デイ』は、在宅高齢者が自宅から歩いて行ける距離で、近隣の高齢者たちが立ち寄れる沙龙的な場を設け、本学学生・教員がそこに出向き、そこでレクリエーション等を通して在宅高齢者の社会的閉じこもり予防や生活に潤いと張りになるような時間と空間を提供することを目的としている（図1）。そして「のんびり・ゆったり・自由気ままに」をテーマに掲げ、高齢者が1日ののんびり・ゆったりと通りがかりに縁側でおしゃべりをする感覚の自由で気ままな雰囲気的空間を創出することを目標としている。このプロジェクトは、本学のみでなく行政機関、老人クラブとの3者間で連携し活動を行なっている（図2）。

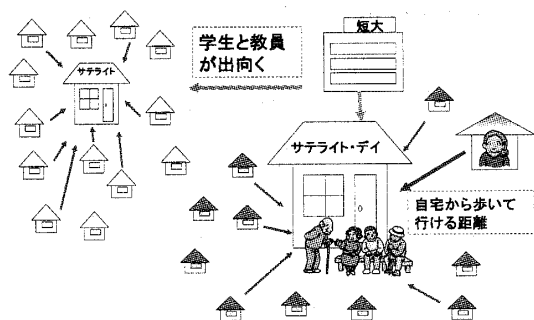


図1 サテライト・デイの概要

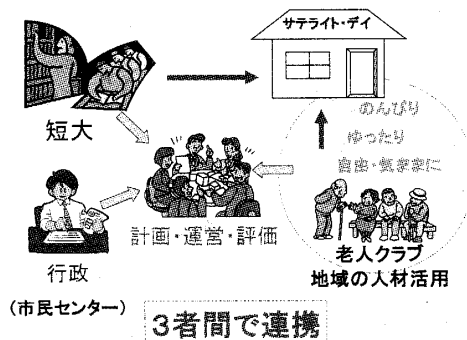


図2 サテライト・デイの組織図

2. 2004年度『サテライト・デイ』の開催状況

『サテライト・デイ』の対象者は、A市B地区の老人クラブの方に呼びかけ、日程のみ提示し、高齢者が参加を希望した日に直接その場へ出向き自由に参加できるようにした。参加費は無料とし、昼食に関しては、B地区にある福祉ネットワークの協力により、近くのお弁当屋から弁当を購入し配達してもらうようにした。昼食は、福祉ネットワークが負担した。在宅高齢者への負担がないようにしている。

2004年度は、看護学科3年次生4～6名がA市B地区に1日出向き、『サテライト・デイ』を開催した。

活動内容として、学生による高齢者の血圧や体脂肪を測定する健康チェックや健康教室、ゲームやグランドゴルフ、郷土料理作りなどのレクリエーションを取り入れたプログラムを学生が計画・実施した。それぞれ日程の内容を以下に示す（表1）。

また、毎回終了後にA4サイズ1枚程度の『サ

表1 サテライト・デイの一日

時間	内容
9:00	学生の自己紹介
9:30	健康チェック 体重・身長・体脂肪・血圧
10:30	健康教室 高脂血症について
11:00	レクリエーション ちぎり絵
12:00	昼食
13:00	レクリエーション 時事川柳など 歌「里の秋」
14:00	終了

テライト・デイニュース』を学生によって作成し、参加者全員に配布した（資料）。

第1回目（10月18日）

B地区の市民センター長や老人クラブの会長の参加によって、開所式を行なう。その後、午前中に学生による「健康チェック」として、身長・体重・血圧・体脂肪の測定を行った。そして健康チェック後、「血圧と体脂肪について」というテーマで、健康チェックで出た値をもとに学生による「健康教室」を実施した。

午後より参加者と学生の交流のレクリエーションとして、学生が企画した「名前当てゲーム」「時事川柳」を行なった。「時事川柳」では、既存の「時事川柳」の一部を隠し、その部分を当ててもらうようにしていたが、既存の「時事川柳」より、在宅高齢者の発想から出てきた言葉を当てはめて出来た川柳の方が美しく、高齢者の発想の豊かさを知る機会になった。最後に全員で季節の歌「りんごの歌」を合唱した。

第2回目（10月27日）

午前中は、参加者の希望によりB地区老人クラブのリードで、廃校になった小学校のグランドを利用して、グランドゴルフを行なった。学生にとっては初めての経験であり、一つ一つ参加者の方の指導を受けながら、和気あいあいと楽しく時間を共にした。昼前に小学校から歩いて移動できるB地区の総合センターへ移動し、昼食を摂った。

午後より、学生による健康（身長・体重・血圧・体脂肪）チェック。その後学生による健康教室を実施。第2回目は、第1回目の続きとして「高脂血症について」をテーマに、高脂血症予防

の基本について説明を行なった。最後に全員で季節の歌「里の秋」を合唱。男性も女性も大きな歌声が響いた。

第3回目（11月9日）

午前中に学生による健康（身長・体重・血圧・体脂肪）チェックを実施。その後健康教室を実施。健康教室のテーマを第1回目、第2回目の続きとして「高脂血症—食事編—」とし、コレステロールが多く含まれる食べ物について説明した。1日に摂取してもよいとされている食べ物の量を持参し、視覚にも訴えながら説明を行なった。参加者がよくおやつとして口にしている和菓子の量を紹介した時、普段食べている料の1/2～1/4であったため感嘆の声が聞かれた。

午後より、「水戸黄門体操」で軽く体を動かし。次に「漢字・ことわざクイズ」「数字あわせゲーム」を行った。「漢字・ことわざクイズ」では、「鯰」「鰯」など「魚編」を使った漢字がいくつか書くことができるかグループで競争する方法で行なった。グループ対抗にすることで、参加者の競争心に火がつき、大変盛り上がった。最後に全員で祭りの時期にあわせ「村祭り」を合唱した。「昔よく歌った歌で唱歌を歌うのはいいなあー」という声が聞かれた。

第4回目（11月16日）

神社の秋祭りが近いということから、境内の掃除を学生も一緒に行ない、その後、老人クラブの副会長から、「神社について」の講話があった。また、学生はB地区内で収穫したばかりの蕎麦を使用して、蕎麦打ち体験とけんちん汁作りを体験した。いずれも参加者の指導を受けて、協力して作った蕎麦を昼食に試食した。

学生にとって地元の神社の講話を聞き、また、地元で収穫した物を使用した郷土料理作りを体験することによって、その地域の風習や食生活を体験することができた。さらに、在宅高齢者の経験豊かな知識と技を知る機会となった。

Ⅵ. 結果

1. 在宅高齢者からのアンケート結果

1) 対象者の属性

今回、『サテライト・デイ』を2004年10月18・27日、11月9・16日の計4回実施した。参加者数は在宅高齢者延べ92名、1日平均18名、全日程出席者は15名であった。参加者は男女とも半数ずつであり、平均年齢は74.0歳であった。

2) 対象者の『サテライト・デイ』への満足度

在宅高齢者の利用交通手段として、「自家用車」、「徒歩」、「福祉ボランティアの送迎」の順に多く、「バッテリーカー」も少数あった。

『サテライト・デイ』の満足度に関しては、満足度を「5：大変満足」「4：満足」「3：普通」「2：不満」「1：大変不満」の5段階で示し、それぞれの項目に対して平均値を求めた。その結果、『サテライト・デイ』に関して、全体的に「満足」の評価を得ることが出来、「不満足」の回答はなかった。具体的内容として、『サテライト・デイ』の開始と終了時間については、「4：満足」という結果であり、「高齢者にとってちょうどよい」「適当に起きて準備できる時間である」という回答であった。反面「終了時間をもう2時間延長すれば充実した内容が出来るのでは」という回答もあった。場所については、「歩いて行くことが出来る距離」「自宅から1キロくらいでよかった」という回答であった。

3) 企画内容についての満足度

内容に関しては、健康チェックや健康教室、学生によるレクリエーションなどの項目も、「4：満足」という結果であった。健康チェックに関しては「年一回の検診では安心できないので、測ってもらえ安心になった」「自分の体調を知る機会になった」「平素調べないのでよい機会になり大変満足している」という反応を得られた。学生が実施する健康教室に関しては、「日常生活の中で本人が気を付けていかなければならないことだったのでよい勉強になった」「普段気になっていたことが聞けてよかった」等、肯定的反応が多く記載されていた。また、「骨粗鬆症」「白内障」「体力作りの方法」など今後の健康教室のテーマの希望が記載されていた。さらに最も学生と交流が出来るレクリエーションでは「頭の体操が出来愉快でした。若い人との出会い、語らい、すべて新しい行事だった」「クイズ等、年甲斐もなく興

奮したりして有意義な時間を過ごせた」などの回答があった。

4) その他の意見

全体に対して、「学生との交流は初めてで、心配していたが、大変良いものができた」「農林地帯にいる私達が学生さんと会え、健康アドバイス、歌、クイズなどから懐かしい昔を思い出し、楽しい一日だった」「学生との交流を思い出し、体につけて一日一日を大切に生きたい」「機会があったらまた学生達と交流したい」という反応を得た。『サテライト・デイ』に今後期待することとして、「自分史の作成」「体を動かすことができる運動」などが挙げられていた。

VI. 考察

『サテライト・デイ』の運営評価と在宅高齢者への効果

1. 『サテライト・デイ』の運営評価

『サテライト・デイ』への交通手段として自家用車や徒歩、バッテリーカーなどがあがっていたように、在宅高齢者が自分の家から自分の足で出かけることができる。又はバッテリーカーに乗って参加することができるということは、行動範囲が限られてくる在宅高齢者が、行事に参加する条件として最も必要なことである。このことは、松岡は「外出先が自宅の近くにあることは、参加を可能にさせる大きな条件」²⁾と述べていることと一致する。また、在宅高齢者が、自らの身体的能力を活用して『サテライト・デイ』に参加できていることは、『サテライト・デイ』の目的である「在宅高齢者が自宅から歩いて行け、近隣の高齢者たちが気軽に立ち寄れる沙龙的な場」としての意義があったと考える。さらに自宅から近い距離で行くことができることによって、在宅高齢者の都合や体調あわせて、自由に出入りが出来るといった利点にも繋がる。

『サテライト・デイ』の内容では、「健康チェック」として血圧や体脂肪の測定を実施している。さらに学生がテーマを考えた「健康教室」や学生の企画によるレクリエーションを行なっている。「健康チェック」「健康教室」では、アンケート結

果から「4：満足」という評価を得ることが出来た。在宅高齢者が記述した内容で、「健康チェック」「健康教室」のどちらも肯定的意見が多く記載されていた。日頃、自分の健康状態を意識している在宅高齢者にとって、健康チェックを定期的に行うことで、自分の体調を知る良い機会になっていると思われる。また、健康チェック時に、在宅高齢者が健康について日頃気になっていることを気軽に相談できる機会にもなっていた。

「学生とのレクリエーション」等のどの項目も、アンケート結果から「4：満足」という評価を得られた。高齢者のみの世帯や独居高齢者の多い地域に居住する高齢者にとって、孫世代の学生との交流は、自分達と異なる感性や日常生活の中で得ることのない刺激を受ける機会となり得る。そして楽しく大声で笑ったり、歌ったりすることで、感情をゆさぶり、また身体の普段使わない部分を動かす貴重なひと時になっていることがわかった。

一方、今後期待することとして、「自分史の作成」「体を動かすことができる運動」「頭を使うこと」などのレクリエーションに対しての要望と「介護保険制度」「白内障」など健康教室についての要望が記載されていた。古閑は、「ふれあい・いきいきサロン」の介護予防効果として、①楽しさがあり、生きがいを生み出し、社会参加への意欲を高める②無理のない運動が出来る③適度な精神的刺激を受ける④健康や栄養管理について意識する⑤生活のメリハリが出来る⑥閉じこもりや引きこもりにならない³⁾としている。また、松岡は「参加者に継続的な参加を促すためにも、企画された行事が体力的に可能で、興味を引く内容であることが重要」⁴⁾と述べている。

このことから、参加者からの要望は、在宅高齢者にとって①興味のあること②無理のない運動③健康への意識付けにあたいする。「自分史の作成」や「頭を使うこと」等の要望を①興味のあることとし、古閑の①楽しさがあり、生きがいを生み出し、社会参加への意欲を高めるに繋がり、「体を動かす運動」の要望は、古閑の②無理のない運動が出来る、そして「介護保険」「白内障」など健康教室に関しての要望は、③健康への意識付けと

し、古閑の④健康や栄養管理について意識するに分類することができる。今後この要望を取り入れながら実施することで、『サテライト・デイ』は在宅高齢者にとって、「興味・関心が持て」、「適度に体を動かすことができる」場となり、『サテライト・デイ』への参加意欲を維持する条件になると考える。

2. 在宅高齢者への効果

<同世代の交流>

「サテライト・デイ」の実施結果から在宅高齢者からは、「若い人と話ができるか心配だったが、有意義な時間が過ごせた」「また会える日を楽しみにしている」等の声が聞かれた。A市B地区で行なわれる行事は、B地区内の中心部で行われることが多い。しかし、『サテライト・デイ』を実施した地区は、B地区の中心部を離れた山あいの地域で、交通機関といえば一日に数本、隣接する行政区のバスの運行がある程度で、B地区の中心部で行なわれる行事には、なかなか参加することが出来ない状況にある。さらに、B地区の高齢者にとって行動意欲はあるものの、家屋が散在する地理的条件や生活の行動範囲が年々狭くなってきている身体的老化が加わり、同じ町内の人々との交流も少ない状態にある。松岡は「行動意欲のある高齢者は、体力的に衰えを実感しているが、誰かと会って話すことや出かけることを求めている」⁶⁾と述べており、今回実施した『サテライト・デイ』は、山間地域のB地区の在宅高齢者にとって「人と話しをする」、「人と触れ合う」機会におおいになっていると考える。「人と話しをする」、「人と触れ合う」ことは、ただ単に若い世代の学生との交流のみを意味しているのではなく、同じB地区内でなかなか会うことのできない近隣の人たちとの交流の機会にもなっている。高齢者にとっては、「同世代交流」と「異世代交流」の出来る場となっている。

「同世代交流」によって、昔話や近所の話、身体についての話に花が咲き、同じ世代の人の元気な姿や元気に過ごしている様子を聞くことによって、「自分もがんばろう!」という意欲に繋がり、昔を共に語る回想によって、高齢者自身が「自分

の生きることや生活も無の主体である事実を確信」⁶⁾することに繋がると考えられる。

<異世代交流>

「異世代交流」によって、蕎麦打ちやけんちん汁等の郷土料理の仕方や神社についての講話など次世代に伝承するという役割を担う。この行為は、社会的役割も退くなどの喪失体験の多い高齢者にとって、社会的役割を再度担うことが出来「人のために何か教えてあげることができる」「自分の持っている知識や技を伝えることができる」という喜びに繋がっていくと考える。ひいては、在宅高齢者にとっての「生活の張り」になると思われる。

<社会的孤立の予防>

このように同世代や異世代の「人と触れ合う」という刺激によって、前日から着ていく服を選んだり、普段しないお化粧をその日はして出かけたり、また自分の趣味の歌を書きとめて次回の『サテライト・デイ』に持っていき披露しようとする気持ちが現れたり、様々な副次的効果も現れている。『サテライト・デイ』に参加することによって、在宅高齢者にとって、出きるだけ多くの人たちと何らかの形で関わりを持ち続ける、という「社会参加への意欲の活性」にも繋がっているのではないかと考える。それは、「また会える日を楽しみにしている」という言葉からも伺える。

B地区の在宅高齢者は、農作業が一日の生活の殆どを占め、農作物を作りそれを収穫するという楽しみにも繋がっている。その一方で、農作業を行っていない人にとっては、体を動かす目的がなく、また人との交流が少ないという現状から閉じこもりになる可能性が考えられる。『サテライト・デイ』に参加することによって、在宅高齢者にとって「身体能力の低下防止」「生きがいを持つことによる精神的能力の低下防止」「社会参加への意欲の活性化」に繋がる。「身体的能力の低下防止」では、農作業の有無に関わらず参加するという目的のために「歩く」、「バッテリーカーに乗る」など自らの身体的能力を活用し、「動く」ことができる。そして、人と出会うことによる「生きがい」や「生活の潤い」を得ることが出来る。最終的には「介護予防」や「閉じこもり予

防」に繋がることが期待できる。

3. 今後の課題

1) 『サテライト・デイ』の今後の課題

計4回の『サテライト・デイ』の利用者評価は、概ね好評で満足度は高かった。今後も『サテライト・デイ』を運営していくために、『サテライト・デイ』のテーマである「のんびり・ゆったり・自由気ままに」在宅高齢者が一人でも多く参加できるように、在宅高齢者の要望を取り入れながら実施していきたい。そして介護予防、閉じこもり予防に繋がればと考える。そのためにもA市B地区の行政機関や老人クラブと連携を強化し、運営していきたいと考えている。

2) 在宅高齢者への効果

在宅高齢者にとって、今後も在宅高齢者が住みなれた地域で、親しんだ人達と交流をしながら、心身の健康維持やその人らしく生活できるような視点でプログラムを充実させていきたいと考える。

3) 学生への効果

今回は、学生にとって『サテライト・デイ』に参加することでどのような効果があったのかを明らかにすることが出来ていないため、学生に与える効果について今後明らかにしていきたい。学生個々では、1日であるが看護の対象の生活している地域性や生活習慣など直接その地域の中に入って学ぶことが出来、より深く対象理解に繋がるのではないかと期待できる。対象の地域性や生活習慣等、対象理解に繋がる実習方法や教員の役割、指導方法についても今後工夫していきたい。

1) 古城幸子・木下香織・栗本一美他：在宅高齢者支援に関する短期大学の地域貢献－阿新キャンパスシティ構想の実現－，新見公立短期大学紀要，25，188，2004

2) 松岡宏子：後期高齢者の触れ合い活動への参加経過について，訪問看護と介護，9(8)，617，2004

3) 古閑学：世田谷区社会福祉協議会 ふれあい・いきいきサロン，竹内孝仁（編）：介護予防－元気高齢者をつくろう，21－28，医歯薬出版，2002

4) 前掲書2) 616

5) 前掲書2) 618

6) 野村豊子：回想法とライフレビュー その理論と技法，2，中央法規，東京，1998

謝辞

『サテライト・デイ』にご協力していただいたB地区老人クラブの皆様、またB地区の市民センターの皆様に深く感謝申し上げます。

引用・参考文献

The Operation Evaluation of “Satellite Day” for the Elderly at Home

Kazumi KURIMOTO, Sachiko KOJI, Kaori KINOSHITA, Tomoe UMAMOTO

The Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585 Japan

Summary

In A City, where depopulation and aging are progressing, enriching of the elderly support is an important issue. Especially B area has 32.4% aging rate and poor public transportation, so elderly couple households and single-elderly households have few chances to meet others. Our college established by A City is engaged in three projects as community contributions. One of them is “Satellite Day,” when a kind of salon is opened and the elderly at B area can walk there and have health checkup and recreational activities with faculty and students of our college. In the first year it was opened four times. In this project the participants made positive responses such as “Fun” and “Good chance to know my health condition.” “Satellite Day” should be continued as a locally rooted activity for the elderly.

Key words: “Satellite Day,” the elderly at home, community contribution

資料

サテライト・デイ ニュー

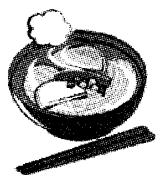
のんびり ゆったり

自由 気ままに



蕎麦うちを伝授していただきました。

見ている
よりも
難しい



初めての蕎麦うちや健康教室など、とても緊張しましたが、それ以上に楽しむことができました。たくさんのお話を学ばせていただきました。皆さんの健康への関心が強いことに驚きました。

静かで落ち着いた雰囲気の中で皆さんが温かく迎えてくださって嬉しかったです。貴重な経験や地域の話を沢山お聞きでき、充実した一日になりました。

蕎麦うち体験では手順を一つ一つ丁寧に教えてくださいました。貴重な体験ができました。地域の方々とお話ししながら楽しく過ごせて、とても充実した一日でした。

地域の方々はとても元気です。今までに得られた豊富な知識や生活の様子を教えてくださいました。健康教室やレクレーションにも積極的に参加して下さり、嬉しかったです。



B地区のお祭りを前に、皆さんで八幡宮のお掃除をされました。そのあと、老人クラブの副会長さんから、八幡宮についてのご講話を聞かせていただきました。

B地区の皆様のご協力とご支援を頂いて、今年度の四回のサテライト・デイを無事、終えることができました。ありがとうございました。そして、また来年度、サテライト・デイで皆さまにお会いできるのを楽しみにしております。寒さがますます厳しくなりますので、どうぞお体にお気を付けて、お元気でお過ごしください。
(編集後記：木下香織)

最後に皆さんで
記念写真、カシャッ!



〔参加者〕
B地区の皆さま二十三名
新見公立短期大学 看護学科十名
〔内容〕
午前 八幡神社のお掃除とご講話
蕎麦うちとけんちん汁の準備
昼食 けんちん蕎麦を会食
午後 学生の自己紹介、健康チェック
学生による健康教室：
テーマ「膝痛・肩こりを予防しよう」
ゲーム：「言葉あそび」
うた：「村祭り」
以下は参加学生の感想です：